

うめナビ

2012.8
Vol.5

国内で世界市場と戦う 「日本密着型の企業」と 共存する企業を目指す

エイト工業

エイト工業(横浜市港北区綱島東、関本利治会長 関本利一社長、045・542・0111)は、来年初創業50周年を迎える産業用プリント基板の開発・製造・販売を営む会社である。同社に加え、プリント基板用端子の開発・製造・販売を営むマックエイトと外形加工のスリーエイトの3社で、エイトグループというグループ会社を構成している。エイト工業は、プリント基板が電気製品の中に本格的に使われ始めた1960年代中頃よりプリント基板の製造を開始した。電子産業界の発展、特に電子機器で使われる部品とその実装方法の進化とともに、技術開発のレベルアップを常に先駆けて進めており、業界にあってもその存在は、フロンティア精神に溢れた企業として高く評価されている。

同社は、現在22種類のプリント基板を取扱い、主に防衛・宇宙・官公庁等の関連電子機器、通信機器、計測器、医療機器を製造する顧客からのニーズに応えている。(2005年宇



関本会長とJAXA規格認定証

宙航空研究開発機構JAXA規格認定取得、2007年防衛省規格認定取得) グループ会社のマックエイトは、オリジナル製品6000種以上のラインナップを誇り、国内外(国内シェア約70%)の顧客に愛用されている。最近では、エイトグループが協力して、モジュールの回路設計・プリント基板設計・製造・部品実装・電気検査までを一括受注している。

エイトグループの今年のスローガンは「強い気力で改善・改革発想転換して価値創造 品質は我々の命」。昨今、益々厳しくなる経営環境下、社員が丸となって改善改革を目指し、「お客様の信頼を得る」ことをモットーに製品づくりに取り組んでいる。「国内で世界市場と戦う」「日本密着型の企業」と共存できる企業を目指す」と関本会長は語る。高度な技術と最新の設備を駆使して、時代のニーズにあった高品位・高信頼性のエレクトロニクスサーキットを世に送り出す、エイトグループに今後も目が離せない。

日本のものづくりの基礎になれ!! 品質維持の要、世界最高峰 カノンブランド

中村製作所

中村製作所(品川区大井、岡村清治社長、03・3775・1521)は、精密測定機器の生産、開発メーカーとして、ノギス、トルク機器、二次元・三次元測定機器を生産している。創業者の中村岩夫氏は、日本のものづくり産業がこれから発展するためには、高度な品質管理を実現する必要があると日々考えていた。ドイツからの輸入品に頼っていた日本の測定機器事情を変えるため、日本で初めてノギスの国産化に成功。1943年の設立以来、「日本のものづくりの基礎になれ!」を合言葉として、あらゆる顧客ニーズに応えられる商品開発力を武器に、ものづくり産業のあらゆるビジネスニーズを叶えるベストツールメーカーとして市場から高い評価を得ている。

現在注目すべき商品は、EXLON-Z III plusという三次元測定機器である。他社製品では二次元、三次元での測定はそれぞれ別の測定機器を使用しなければならぬところ、同社の製品では電子プローブとCCDカメラを装備することにより、一度に二次元、三次元での測定を実現することができる。同製品は、顧客からの「電子プローブでは測定できない細かい穴も同時に測定できた」というニーズをヒントに、これまでのノウハウを駆使し、製品の開発、製造までをス

ピーデーに行うことで、他社には真似できない製品開発を実現している。また、通例三次元測定機器を導入する場合、設置場所について正確な室温管理と機器を利用するためのエアリー設備工事が必要だが、同社製品は強い石定盤を導入することにより室温管理も、エアリー設備導入も不要なため、導入コストを最小限に抑えることができるのも特徴である。常に顧客のそばでニーズを探り、大企業には実現できない顧客からの特殊な加工ニーズに応える「製品開発能力」と顧客ニーズから製品開発までの「スピード」が同社の強みである。

また2012年11月1日(11月6日)に東京ビックサイトで開催される「JIMTOF2012」第26回日本国際工作機械見本市」に新製品出展を予定しており、岡村社長は「詳細については現段階では公表できないが、世の中にはない便利な製品を出展予定である。ぜひ工作機械最大級の祭典に足を運んでいただき、当社の技術の結晶を見てもらいたい」と話す。



三次元測定機器「EXLON-Z III plus」

<p>うめナビ 送付先業種</p>	<p>商社 5先</p>	<p>スーパー・小売・百貨店 10先</p>	<p>メーカー 17先</p>	<p>マスコミ 49先</p>	<p>教育(大学・専門学校) 28先</p>	<p>公共機関 11先</p>	<p>ホテル 14先</p>	<p>金融 18先</p>	<p>建設関連 13先</p>	<p>システム関連 10先</p>	<p>その他 67先</p>	<p>合計 242先</p>
-----------------------	------------------	----------------------------	---------------------	---------------------	----------------------------	---------------------	--------------------	-------------------	---------------------	-----------------------	--------------------	--------------------

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

音声拡聴器を通じて、より快適なコミュニケーションを 難聴の母のために閃いた アイディア商品

伊吹電子

伊吹電子(川崎市高津区下作延、松田正雄社長、044・888・3796)は、電子機器・基板設計製造を主業としているが、現在は、同社による開発商品である音声拡聴器を製造、販売まで一手に行っており、巷の大きな話題となっている。

音声拡聴器とは、難聴の方にも音が聴こえるようにする補助器具(医療器具ではないことがポイント)のことである。聴覚補助の器具としての補聴器との違いは、補聴器が、厚生労働省によって薬事法

における医療機器として正式に認定した聴覚補助具で、厳しい制約条件があるのに対し、音声拡聴器は薬事法の規制を受けていない福祉器具であるため、誰でも入手することができる。

中でも、最初に開発された「クリアーボイス」が一番人気。見た目は携帯電話のような形状で、スピーカー部分を耳に当てながら側面のボタンを押すだけで簡単に使用でき、ボタンを離すと電源が切れる



様々な種類の「音声拡聴器」

という操作性に優れていることが特徴。2005年にはその機能性が認められ、川崎市ものづくりブランドに認定されている。また、川崎市が高齢者に贈呈している敬老祝品にも選定されている。

他にも骨伝導型タイプのクリアーボイスや、ペンダント型の「iペンダント」、音楽プレーヤーのような「iスマートボイス」、ヘッドホン型の「カムバックII」、受話器に取り付け使用する「ハイハイ電話」など、多様な音声拡聴器を開発している。

価格面でも、両耳で数十万円する補聴器に比べ、音声拡聴器は1万円〜4万円と安く、通販サイトからも容易に購入することができる。東急ハンズ(一部店舗を除く)などの店頭販売も行っており、今後は中国での販売も視野に入れているとのこと。

実際に音声拡聴器を開発するに至ったきっかけは、松田社長が帰郷した際に、母親が高齢で重い難聴になっていた事実に愕然とし、母親のために何か役に立てないかと考えた末に、段ボールを用いて音声拡聴器を製作し、母親に使用させたところ「よく聞こえる」と喜ばれたことだった。

松田社長は、「耳の不自由な人が、より快適なコミュニケーションが取れるようになる製品を今後も開発していきたい」と強い意気込みを語る。

詳しくはホームページにて
(<http://www.ibukiel.co.jp>)

ユーザー本位のフレキシビリティな設計 経験豊かな技術者と熟練した 技能者が一体でお応えします

万善工機

万善工機(港区新橋、三浦明宏社長、03・3591・6211)は、産業・研究実験設備品のアイソレーション機器、グローブボックスシステム、各種ドラフトチャックの専門メーカーとして、機能的で質の高い製品の提案から設計・製作、現地設置・バリデーションまで自社で一貫して行っている。主力商品の「グローブボックス」とは、大気中の水分や酸素に激しく反応する物質を取扱う場合、低水分・低酸素状態の環境をつくり出し、作業を行うことができるようにする容器のことである。医薬品半導体、有機無機化学、金属工学、原子力、バイオ等幅広い分野の研究関連機器や製造生産工程で使用されている。

「ドラフトチャンバー」とは、臭や有害ガスが発生する化学実験等を行う際、作業者の安全確保のため、排気機構を備えた装置である。また、発生した排気ガスもドラフトチャンバーに搭載された排気ガス洗浄装置により浄化されて屋外へ放出されるため、環境にも配慮されている。現在、この2製品に加え、無菌操作を行うためのクリーンベンチやクリーンドラフト等を主力製品としている。



高純度ガス内での乾燥を行うことができる「真空乾燥器付グローブボックス」



低水分・低酸素状態をコントロールできる「不活性ガス循環精製装置付グローブボックス」

同社は、経験豊かな技術者と熟練した技能者が一体となり、中小企業のメリットをフルに生かし、お客様の要望を十分取り入れた設計はもとより、製作・製品検査・現地バリデーションテストに至るまで自社で一貫して行うため、隔々まで行き届いた高品質な製品を生み出している。また、製品の性質上、常に安全で正確に、且つ、永く安定した性能を維持しなければならぬため、各工程・段階ごとの品質・製品検査はもちろん、幾多の性能テストを厳しく行っている。

今後の展望を聞いたところ、「私は機械屋、専務である弟は電気制御屋。お互いの得意分野を活かし、二人三脚で、今後ますます需要の高まるグローブボックスの自動制御化とお客様のニーズを取り込んだ新製品の開発に力を注ぎ、医薬品分野、半導体分野等あらゆる産業界の発展のお手伝いのでき、貢献できるよう当社としても、さらなる進化を続けていきたい」と三浦社長は言う。

5色あんぱんが大人気! 手作業で丹精込めてつくる こだわりのパン

世田谷製パン



豆を使い、長年取引のある信頼のおける山梨の工場であんこを仕入れるというこだわりも見せる。また、あんぱんの他にも、惣菜パンはポリウム満点で若者の間で評判、添加物を一切使わないパンが幅広い層からの支持を集めている。それぞれの年代にあったパンを製造し、好評を得ているのも親しまれる要因の一つである。

東急田園都市線の三軒茶屋駅から徒歩約7分の場所にあるのが、創業昭和2年、85年間営業している老舗のパン屋である、世田谷製パン(世田谷区太子堂、宮川正太郎社長、03・3421・0179)である。

スーパード等への卸売りがメインだが、近所の人たちにも親しまれ、主に高齢の方に大人気だ。一番の売れ筋商品は製造や材料にこだわりの見せている「5色あんぱん」。5個1セットで220円。1個当たり44円とかなりお得で、1日で約8000個売れている人気商品だ。パンの中は、「小倉あん、抹茶あん、くりあん、うぐいすあん、白あん」の5種類で、様々な味を楽しむことができる。同社では、創業以来、あんぱんを販売しており、日々改良を重ね、現在の5色あんぱんが誕生した。北海道から取り寄せた厳選された小



大人気の「5色あんぱん」

の日の気温にも左右され、日々細かな調節をして苦心しておいしいパンが製造されている。

制御盤リフレッシュ!! 「5つの力」でお客様のニーズに技術で応えます

稲城電機工業

稲城電機工業(稲城市坂浜、田中桂次郎社長、042-350-1981)は、制御盤・計装盤・PLC更新機器・分電盤・配電盤・電磁弁盤等の製造販売をしている制御盤のスペシャリストである。「制御盤という難しいイメージがあるかもしれませんが、実はとっても身近なもので、電気に関わる所には、種類は様々ですが制御盤が必要なんです」と田中社長。



田中社長は常に顧客目線でモノづくりに取り組んでいる

その制御盤の心臓部ともいえるのが、PLC(シーケンサ)というもので、長年使用している設備のPLCを交換・更新する場合、既に生産中止になっているケースがほとんどであり、迅速なPLCの交換・更新の対応ができなければ、設備稼働や工場操業に多大な被害が発生してしまふ。そのような事態に有効なのが、同社の技術と経験を結集させた「PLCリプレースキット」だ。

同商品の特徴は、既設の配線を変更することなく、既設端子台ごとPLCリプレースのユニットへ接続することで、作業時間と設備停止時間の大幅な短縮を可能とし、変更・更新・置換え作業時間は最大で約1/10となることだ。さらに、穴あけ加工が不要で、金属屑混入等のトラブルの心配がないため、ドライバー一本で誰でも簡単に短時間で作業が可能だという。性能・品質・価格の3拍子揃った商品である。

この「5つの力」が顧客の要望に徹底的に応えていく原動力であり、同社のモットーである「優れた技術に裏打ちされた高品質で安全な製品を供給し、社会に貢献すること」を実現させている。



技術と経験の結集である「PLCリプレースキット」

この「5つの力」が顧客の要望に徹底的に応えていく原動力であり、同社のモットーである「優れた技術に裏打ちされた高品質で安全な製品を供給し、社会に貢献すること」を実現させている。

私たちの想像力は無限大です

ニットク

ニットク(世田谷区千歳台、早川康利社長、03-3483-5101)は、昭和46年に設立、創業以来シール、ラベル、ステッカー等の特殊分野一筋を歩み、ノウハウを蓄積し続けており、昨年、創業40周年を迎えた。



徹底した5Sで常にクリーンな状態の工場

今日、シール・ラベルは、様々な市場において商品の顔として重要な役割を担っており、機械部品の一部として扱われることもあり、あらゆる分野において無くしてはならない存在となっている。そのため、シール・ラベルに対する品質基準も今まで以上に厳しくなっているのが現状だ。



製品の出栄えを見る早川社長

同社は、ISO9001:14001の取得により、製造・検査ラインの更なる充実を図っており、衛生的かつ密閉性の高い完全隔離された検査室、それに伴う充実した検査体制を整えている。また、医薬品用ラベル、機械部品用ラベル、販促用ラベル、その他高い精度を要求されるラベルなどの多種多品目に亘る製品に対応可能な設備を誇り、長年培ってきた経験と技術



同社が製造したシール、ステッカー

また、同社は「かけがえのない地球環境」を次世代へ引き継いでいくため、原材料の削減等の省資源に努めるなど、環境保全活動を積極的に展開しており、「品質確保」と「環境保全」をモットーとして、社会の発展とともにさらなる飛躍をめざしている。

詳しくはホームページにて (<http://www.nitokunet>)

創業八十八年、老舗日本茶卸売り問屋

斉藤商店

「昨年、NHK「ためしてガッテン」で日本茶の健康効果が評判になった。世田谷区のさつき濃 斉藤商店(世田谷区船橋、齋藤光哉社長、03-3302-4291)の経営理念にも、「日本茶の健康効果を通じて社会に貢献します」とある。

「夏を楽しむ水出し煎茶」——「ティーパックでおいしく簡単に淹れる「水出し煎茶」は、専門店の味が楽しめる。パウダーの「新緑茶」も、味と簡便さを追求して平成4年に開発(50g入り、一杯分0.5g)。両商品ともお湯でも楽しむことができる。



世田谷の千歳船橋にある「さつき濃」の店内

また、三宅坂国立劇場内2階にも温かい日本茶が楽しめる御休み処「さつき濃」がある。近隣の「さつき濃」に立ち寄り、ちょっと一息、ここを休めていただきたい。

「和紅茶」——お茶独特の渋みの強さがなく、薫り高い飲み心地豊かな佐賀県産の紅茶を取り揃えている。

「さつき濃」——お茶の産地、京都、静岡、福岡、鹿児島、佐賀、奈良、埼玉の各地の特色が楽しめる。飲み比べて楽しめる一品である。

「諸国銘茶」——日本の茶の名産地、京都、静岡、福岡、鹿児島、佐賀、奈良、埼玉の各地の特色が楽しめる。飲み比べて楽しめる一品である。

現在、「さつき濃」ブランドのお茶を販売する日本茶専門店が、関東地方を中心に30店舗ある。

「なくては困る」企業をつくる！ 独創アイデアでお客様ニーズに 応える大田区スピリット

岡田 鋳金

岡田鋳金(大田区新蒲田、増田道造社長、03・3734・7101)は、金型を必要としない精密鋳金加工を得意としており、主に医療機器等の精密機器部品の加工を業として行っている。



増田社長のモットーは「お客様第一主義」

のIT化を進め、ノウハウをデータ化、機械をネットワーク化して技術力のギャップをカバーするようにした。「大田区なら各工程は別工場、別会社で行いますが、当社では全て1つの工場で購入するため、顧客への納期、製品コストを大幅に削減することが可能となります。なにより、全工程を引き受けることで、顧客の様々なニーズに合わせた生産体制、『変種変量生産』が実現できる。これを『ミニ大田区』と呼び、この取り組みを20年以上かけて築いてきました」と増田社長は語る。

中小企業が林立する大田区では、従来は各々の町工場が得意分野の技術力を駆使し、それらを集約することで良質な製品供給を行ってきた。同社も大田区の町工場の1つとして活動してきたが、1980年代後半より集合住宅の増加、規制の強化が進み、茨城工場へ移転することとなった。ここで問題となったのが、今まで大田区以外の工場と補充し合っていた工程が完結しなくなってしまうこと。そこで、大田区で廃業して職を失った多数の技術者や工場長を貴重な人材として同社に受け入れることで、社内で一貫して設計から出荷まで対応できる体制を築いた。さらにデジタル技術



「ミニ大田区」を実現した茨城工場の様子

社長のモットーは「お客様第一主義」。常に顧客への良質な製品・サービスの提供や様々なニーズに対応することで、単なる「下請企業」ではなく、「パートナー企業」として、顧客にとってなくては困る企業にしていきたいと考えている。そのため、日々の情勢の変化を敏感に察知し、固定観念にとらわれることなく仕事のやり方を見直し、より良い製品を提供していくことをめざし、「当社がお客様にとって、なくては困るパートナー企業となるためには、いかなる企業努力も惜しまない。工場は大田区ではないが、大田区のモノづくりの精神は受け継がれている」と増田社長は話す。これからも大田区モノづくりスピリットを受け継いだ同社の成長に終わりは無い。

絶対に壊れてはいけぬものをつくる 職人による確かな 鍛造技術の伝承が強み

宮地鉄工所

宮地鉄工所(大田区昭和島、宮地隆社長、03・3762・5751)は、大正7年個人創業以来、鍛造業を営み、昭和23年に法人設立。現在は、宮地社長が金型設計、制作を担当し、長男の宮地大輔専務が会社全般を取り仕切っている。主に鉄の鍛造品である鉄道用車両部品の製造を旧国鉄時代から永年に亘って手掛けており、他にも、国内トラックメーカー向けにトラック用スタビライザー(車輪軸安定用部品)を製造している。特に、トラック用スタビライザーにおいては、日本で生産されるトラック(2tから6t)の70%程度を生産しており、「絶対に壊れないもの」をつくることに対する実績により、JRや自動車会社からの永年の信頼につながっている。



昭和島の工場。様々な素材の加工が可能

状に変化させ、鉄の強度を高めるのだが、打ち方の早さ・強さ・回数により全く異なる結果となる。機械による自動化ができない分野なので、職人の「ウデ」こそが製品の出来を左右してしまう。同社では、熟練工による若手の育成に力を入れており、ばらつきのない安定した製品の製造、金型製造技術を若手で全て作れるように教え込んでいるのだ。

同社では、主に熱間鍛造による鍛造品を製造しているが、成形方法としては、型打鍛造法と自由鍛造法の製造技術を持ち、両方を融合させた、卓越した技術を持ち合わせている。また、様々な素材の加工経験があり、鉄だけでなく、ステンレスなどの特殊鋼の鍛造加工もできる。加熱設備の温度調節装置が対応できる範囲で、ほとんどの材料の鍛造が可能だ。少量多品種を取り扱うとともに、金型製作から一貫して行っており、短納期かつ多様な顧客ニーズを的確に製品に反映できる体制を構築している。他社に断られたような製品も積極的に受付けているので、まずは図面にて相談して欲しいとのこと。



巨大なエアスタンプハンマーも熟練した職人でこそ輝きを放つ

詳しくはホームページにて
(<http://www.miw-web.co.jp>)

美味しいと感じた味は、 いつまでも忘れない 100%国産米、 人の手のぬくもりにこだわった 昔ながらのお煎餅

藤一



地藏通り商店街の入り口に立地している、「雷神堂」菓鴨本店

同社の一番人気は、逆転の発想から生まれた「ぬれかり餅」。お煎餅の製造過程で割れてしまったお煎餅を商品にならないと廃棄せず、割れているからこそ味をより染み付けることができると発想を転換した。事実、割れ口から内側に醤油が染みこみ、見事なまでに濃厚な味が楽しめる。他にも、お誕生日やお祝いのお贈り物にオススメな「名入れ煎餅」も秀逸。希望の絵やメッセージをお煎餅に入れることができ、オリジナルのお煎餅をつくることのできる。

「日本の文化である煎餅をしっかりと受け継いでいき、もっと煎餅を身近なものにしていきたい。そして、美味しいお煎餅で日本人の笑顔をもっと増やしていきたい」と加藤社長は語る。社長の豊かな発想とこだわりが、次のような商品を誕生させるのか、期待が高まる。



口コミにより一番人気になった「ぬれかり餅」